

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-106	中 学	社 会	歴史的分野	1 - 3
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
225・自由社	歴史・737	新版 新しい歴史教科書		

1. 編修の趣旨及び留意点

編修の趣旨は、教育基本法第2条に規定された教育目標を達成するため、学習指導要領・歴史的分野の目標(1)に掲げられた「我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる」ことのできる歴史教科書とすることである。

編修の留意点は、上記の課題を実現するため、学習指導要領の示すところに忠実に従い、その趣旨を最大限に生かすことである。

2. 編修の基本方針

編修の趣旨及び留意点を踏まえ、以下の各事項を編修の基本方針とした。

- ①歴史を単なる事実の羅列ではなく、意味のある一貫したストーリーとなるよう構成する。
- ②日本の歴史と文明の特色を明らかにし、日本の伝統と文化に誇りをもてるように構成する。
- ③基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるという目標が達成できるように構成する。
- ④生徒の主体的な学習を助け、歴史の探究に導き、生徒が自分の言葉で日本の歴史を語れるようになることを目指して構成する。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所(ページ)
本文の他に、ミニコラム、1ページコラム、2ページコラムなどを配置。	【幅広い知識と教養を身につけ】 コラムや、91単元の頁に適宜配置されたミニコラムの文章教材によって、本文でのべたことを敷衍しつつ、歴史に厚みと奥行きを与える独自の読み物として、幅広い知識と教養を身につけさせる入口となるよう配慮した。(第1号)	全体
コラム・岩宿遺跡を発見した相澤忠洋	【真理を求める態度を養い】 《コラム・岩宿遺跡を発見した相澤忠洋》で、岩宿遺跡の発見者の人物像を通して、真理を求める一貫した態度と努力の尊さに気付かせるように配慮した。	28-29
コラム・正確な日本地図をつくった伊能忠敬	【豊かな情操と道徳心を培う】 《コラム・正確な日本地図をつくった伊能忠敬》で、地球の大きさを実測して知りたいという科学的探求の熱意と努力が、正確な日本地図の作成につながっていったことを記述した。(第1号)	140-141
単元4・宗教のおこり コラム・仏像の見方、など。	【豊かな情操と道徳心を培う】 豊かな情操や道徳心の基礎ともなる宗教の記述を充実させ、世界の宗教のおこりと、日本に育った信仰に関心を向けるように配慮した。	36-37 72-73

<p>コラム・武士と忠義の観念／ 二宮尊徳と勤勉の精神</p>	<p>江戸時代に伝統として形をなした武士道や勤勉の精神が日本人の道德心の基礎となり、近代日本の成功にもつながったことに気付かせるように配慮した。</p>	<p>134、135</p>
<p>コラム・日本の実業家の伝統をつくった渋沢栄一</p>	<p>《コラム・日本の実業家の伝統をつくった渋沢栄一》で、渋沢が商人としての誇りと高い道德心を説き、「論語と算盤」という言葉に象徴される、日本の実業家の伝統をつくったことを記述した。</p>	<p>204-205</p>
<p>コラム・東日本大震災と日本人</p>	<p>《コラム・東日本大震災と日本人》で、世界から絶賛された日本人の冷静・沈着なふるまいと、自己犠牲の精神を明らかにし、日本人の道德心について考える手がかりとした。(第1号)</p>	<p>276</p>
<p>序章・「〇〇の歴史を調べる」で、野球の歴史を取り上げた コラム・日本の底力を世界に示した昭和39年の東京オリンピック</p>	<p>【健やかな身体を養う】 《序章・「〇〇の歴史」を調べる》という学習課題のテーマとして「野球の歴史」を取り上げ、調べ学習の題材とした。</p>	<p>12-15</p>
	<p>《コラム・日本の底力を世界に示した昭和39年の東京オリンピック》で、女子バレーの「東洋の魔女」が優勝したのち、ママさんバレーがブームになったことなどを紹介した。(第1号)</p>	<p>262-263</p>
<p>コラム・福沢諭吉の『学問のすすめ』と「脱亜論」</p>	<p>【個人の価値を尊重し】 《コラム・福沢諭吉の『学問のすすめ』と「脱亜論」》で、一人ひとりの独立心と主体性こそが一国の独立のもとであるという福沢の思想を紹介し、個人の価値を尊重する態度の育成に資するように配慮した。(第2号)</p>	<p>188-189</p>
<p>序章第3節 人物を通して時代をとらえる、の中で「からくり儀右衛門」こと田中久重を取り上げた</p>	<p>【その能力を伸ばし、創造性を培い】 序章の人物学習の中で、日本のものづくり技術の高さを示す事例として、「からくり儀右衛門」こと田中久重を取り上げ、日本人の創造性に気付かせるように配慮した。(第2号)</p>	<p>18-19</p>
<p>コラム・二宮尊徳と勤勉の精神</p>	<p>【職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと】 《コラム・二宮尊徳と勤勉の精神》で、日本人が勤労・勤勉を美徳としていること、同時に尊徳は理財家としての合理的側面も兼ね備えていたこと、に気づかせるように配慮した。(第2号)</p>	<p>135</p>
<p>ミニコラム・迫害されたコダヤ人を助けた日本人 樋口季一郎と杉原千畝</p>	<p>【正義と責任】 迫害されたコダヤ人を救った日本人外交官や軍人は、日本政府の人道の方針に基づいて、正義にかなった、責任ある行動をとったものであることが理解できるように配慮した。(第3号)</p>	<p>237</p>

<p>序章第3節 日本人最初の女子留学生・津田梅子</p> <p>単元8・神話が語る国の始まり</p> <p>ニコラム・ペリーは日本人をどう見たか</p>	<p>【男女の平等】</p> <p>序章の人物学習で、伝記記述の事例として「日本人最初の女子留学生・津田梅子」を取り上げ、世界的な視野を持ち、近代日本女性の教育に生涯を捧げたことに注目させるよう配慮した。</p> <p>日本神話の内容を紹介し、古来、男女の神が協働して国を造り、女性の神が日本の最高神とされていることを書いた。</p> <p>幕末に書かれた「ペリー遠征記」を引用し、外国人の客観的視点から、日本社会で日本の女性が高い尊敬を受けていることを紹介した。(第3号)</p>	<p>17</p> <p>44-45</p> <p>159</p>
<p>コラム・幕末・明治期の日本人の生き方</p>	<p>【自他の敬愛と協力を重んずる】</p> <p>《コラム・幕末・明治期の日本人の生き方》で、自他の敬愛と協力を重んずる日本人・日本社会の姿が、外国の観察者によって活写されていることを紹介した。(第3号)</p>	<p>180-181</p>
<p>資料・十七条の憲法</p> <p>コラム・武士と忠義の観念</p> <p>コラム・明治維新とは何か</p> <p>コラム・日本の実業家の伝統をつくった渋沢栄一</p>	<p>【公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う】</p> <p>聖徳太子の十七条の憲法を、全文にわたって平易な現代語で記載し、この中で「公」の観念が提起され、国家の理想が示されたことを理解できるように配慮した。</p> <p>《コラム・武士と忠義の観念》で、主君への盲目的服従ではなく、自己の属する共同体の公共の利益のために働くことが忠義の観念の核心にあること、それが、明治維新の改革につながる思想的淵源にあったことを理解できるように配慮した。</p> <p>《コラム・明治維新とは何か》で、公のために自己犠牲をいとわない武士的精神が明治維新を可能にしたことを理解できるように配慮した。</p> <p>《コラム・日本の実業家の伝統をつくった渋沢栄一》で、渋沢が商人としての誇りと高い道徳心を旨とし、単なる金儲けではなく、公益に尽くすことを実業家のあり方としていたことを明示した。(第3号)</p>	<p>53</p> <p>134</p> <p>170-171</p> <p>204-205</p>
<p>ニコラム・戦争と全体主義の犠牲者</p>	<p>【生命を尊び】</p> <p>20世紀は人類史上最も文明の発達した世紀でありながら、2度の世界大戦と2つの全体主義の犠牲者が、日本人を含めて約1億6000万人に達するという冷厳な事実を指摘し、21世紀には二度とこの愚行を繰り返すことのないよう訴えた。(第4号)</p>	<p>271</p>
<p>コラム・エコロジー都市 江戸</p>	<p>【自然を大切にし、環境保全に対する態度を養う】</p> <p>《コラム・エコロジー都市 江戸》で、当時世界一の人口をかかえた大都市・江戸が、完備された上</p>	<p>147</p>

	下水道と無駄のない資源再生システムを有していたことを述べた。(第4号)	
コラム・「和の文明」縄文	【伝統と文化を尊重し】 《コラム・「和の文明」縄文》で、縄文時代が戦争のない、豊かな調和のとれた社会であり、そこから日本の和の伝統が生まれたことを示唆した。	32-33
コラム・国譲り神話と古代人	《コラム・国譲り神話と古代人》で、神話の中に投影された、政策決定における合議、敗者を手厚く遇することなど、日本人の伝統的思想が読み取れるように配慮した。	46-47
資料・十七条の憲法	「和」を重んじるなどの日本の伝統は、聖徳太子の十七条憲法によく表現されているので、その全文を平易な現代語で示した。	53
コラム・日本の天皇と中国の皇帝	《コラム・日本の天皇と中国の皇帝》などによって、古代から現代まで皇室が日本の伝統と文化の中心であり、独自の文明の象徴であったこと、また神話に淵源を持つ皇統が現在も継続していることが世界的に見て希有の存在であることに気付かせるように配慮した。	78
コラム・浮世絵とジャポニスム	《コラム・浮世絵とジャポニスム》で、世界が評価することで日本人がその価値を再認識した浮世絵の事例を挙げて、日本文化の伝統の重さを想像できるように配慮した。(第5号)	150
巻頭グラビア・日本歴史の舞台ー「3つの日本」が見えてくる	【それらを育ててきた我が国と郷土を愛する】 《巻頭グラビア・日本歴史の舞台ー「3つの日本」が見えてくる》で、高度1万メートルから見た航空写真には縄文以来の豊かな自然の恵みが、1千メートルからは日本の歴史を支えた生産力の基礎となる稲田の広がり、そして、100メートルからはものづくりの現場でもある町工場が見えてくる、という設定で、日本の国土を愛し、そこで培われた歴史を愛する素地が自然と生まれるように工夫した。	2-3
序章第4節・地域の歴史を調べる	《序章第4節・地域の歴史を調べる》で、渋谷区の歴史を取り上げ、郷土の先祖がどのように生活し、文化と伝統をつくりあげてきたかを学ぶことで、郷土を愛する心情の土台がつくられるように配慮した。	20-24
コラム・外の目から見た日本(シリーズ)	《コラム・外の目から見た日本》を各時代に配し、話題として、魏志倭人伝、宣教師の見た日本人、幕末・明治期の日本人の生き方、世界が見た日露戦争、大東亜戦争とアジアの独立、東日本大震災と日本人を取り上げた。これらの教材を通して、それぞれの時期に日本人を観察する機会があった外国人が日本人の高い道徳性を公正に評価していることに気付かせ、肯定的な自画像を結ばせることで、我が国への誇りと愛国心が自然な形ではぐくまれるように配慮	41、120、180-181、208、276

<p>コラム・日露戦争をたたかった日本人</p>	<p>した。 《コラム・日露戦争をたたかった日本人》で、沖縄の宮古島に伝わる「久松五勇士」の話題を通して、軍人や兵士だけではなく、銃後の庶民も愛国心を発揮して日露戦争をたたかったことを象徴的に示すことによって、我が国を愛する心情を養うことに資するよう配慮した。(第5号)</p>	<p>196-197</p>
<p>コラム・外の目から見た日本(シリーズ)</p> <p>ミニコラム・迫害されたユダヤ人を助けた樋口季一郎と杉原千畝</p> <p>コラム・勇気と友情の物語―世界と交流した近代日本</p>	<p>【他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う】 《コラム・外の目から見た日本》を各時代に配し、他者・他国からの視点と評価を学ぶことによって、他国を尊重し、国際社会の中で生きる日本人の資質の土台をつくるように配慮した。 《ミニコラム・迫害されたユダヤ人を助けた樋口季一郎と杉原千畝》において、ユダヤ人を助けた日本人の事績を紹介し、勇気をもって、他国・他民族を苦境から救う行為の尊さに気付かせるように配慮した。 《コラム・勇気と友情の物語―世界と交流した近代日本》において、トルコと台湾との関わりを例にして、他国を尊重することの大切を理解できるように配慮した。(第5号)</p>	<p>41、120、180-181、208、276</p> <p>237</p> <p>274-275</p>

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色.

教育基本法第5条に示された義務教育の目的のうち、「各個人の有する能力を伸ばす」ために、歴史の基礎知識を身につけるとともに、歴史に対するより高いレベルの知的関心にも答えうる構成を工夫した（特に各章のまとめ）。

また、学校教育法第21条に規定された義務教育の目標を達成するため、①規範意識、公正な判断力、公共の精神にかかわる教材の選択を重視し（特にコラム）、②我が国と郷土を愛する態度の育成に資することを目指し、③読書に親しみ、国語を正しく使用する基礎的能力を養うことに配慮した（特に序章と、各章末尾の歴史豆辞典・100字用語解説における、文章でまとめやレポートを書くことのすすめ）。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-106	中学	社会	歴史的分野	1 - 3
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
225・自由社	歴史・737	新版 新しい歴史教科書		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

「我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせる」ために、その特色をつくり出す要因となった2度の自立的国家形成過程（7世紀の古代律令国家と19世紀後半の明治国家）に重点的に時間を配分した。各時代において日本人の高貴な精神が外部の人々から評価されてきたことを資料として示し、それらを通して「我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる」という目標が達成されるように配慮した。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所 (ページ)	配当 時数
日本の伝統的工芸品 歴史を学ぶとは 日本歴史の舞台 「3つの日本」が見えてくる	(1) 歴史のとらえ方 ア イ	I-II 2	2
序章 歴史のとらえ方 第1節 年代のあらし方と時代区分 第2節 「〇〇の歴史」を調べる 第3節 人物を通して時代をとらえる 第4節 地域の歴史を調べる	(1) 歴史のとらえ方 ア イ	8 12 16 20	8
第1章 古代までの日本 旧石器・縄文・弥生・古墳・飛鳥・奈良・平安時代 第1節 文明のあけぼの 1. 日本人はどこから来たか ■岩宿遺跡を発見した相澤忠洋 2. 自然の恵みと縄文文化 ■「和の文明」縄文 3. 文明の発生 4. 宗教のおこり 5. 稲作の広まりと弥生文化	(2) 古代までの日本 ア	26 28 30 32 34 36 38	5
第2節 古代国家の形成 6. 中国の歴史書が語る古代の日本 7. 大和朝廷と古墳の広まり 8. 神話が語る国の始まり ■国譲り神話と古代人 9. 東アジアの国々と大和朝廷 10. 仏教伝来	イ	40 42 44 46 48 50	5

第3節 律令国家の建設 11. 聖徳太子の新しい政治 12. 遣隋使と天皇号の始まり 13. 大化の改新 14. 律令国家への道 ■「日本」という国名のおこり 15. 大宝律令と平城京 16. 記紀の編纂と大仏造立 17. 飛鳥・天平の文化	ウ	52 54 56 58 60 62 64 66	7
第4節 律令国家の展開 18. 平安京と摂関政治 19. 平安文化 ■仏像の見方 ■仮名文字と女流文学 20. 武士の台頭と院政 ■日本の天皇と中国の皇帝	エ	68 70 72 74 76 78	4
□古代とはどんな時代か（第1章のまとめ）		79	1
第2章 中世の日本 鎌倉・室町時代 第1節 武家政治の始まり 21. 平氏の繁栄と滅亡 22. 鎌倉幕府の武家政治 ■武士のおこりと鎌倉幕府 23. 元寇 ■元寇と朝鮮半島 ■日本人の名字の由来	(3) 中世の日本 ア	82 84 86 88 90 91	4
第2節 武家政治の展開 24. 建武の新政と南北朝の時代 25. 室町幕府と守護大名 26. 日明貿易と朝鮮・琉球 27. 応仁の乱と下剋上	ア	92 94 96 98	4
第3節 中世の社会と文化 28. 中世の都市と農村の変化 29. 鎌倉文化 30. 室町文化 ■一揆と合議の伝統	イ	100 102 104 106	3
□中世とはどんな時代か（第2章のまとめ）	(4) 近世の日本	107	1
第3章 近世の日本 安土桃山・江戸時代 第1節 戦国時代から天下統一へ 31. 戦国大名 32. ヨーロッパ人の世界進出 33. ヨーロッパ人の来航 34. 信長と秀吉の全国統一	ア	110 112 114 116 118	7

35. 秀吉の政治と朝鮮出兵 ■宣教師の見た日本人 ■秀吉はなぜバテレンを追放したか		118 120 121	
36. 桃山文化		122	
第2節 江戸幕府の政治			
37. 江戸幕府の成立	イ	124	4
38. 朱印船貿易から鎖国へ		126	
39. 鎖国日本の4つの窓口		128	
40. 江戸の社会の平和と安定	ウ	130	
第3節 産業の発達と教育・文化の普及			
41. 綱吉の文治政治と元禄文化 ■武士と忠義の観念 ■二宮尊徳と勤勉の精神	ウ	132 134 135	4
42. 農業・産業・交通の発達		136	
43. 教育・文化の普及 ■正確な日本地図をつかった伊能忠敬		138 140	
第4節 幕府政治の展開			
44. 幕府の政治改革		142	4
45. 化政文化 ■町人が育てた歌舞伎 ■エコロジー都市 江戸	ウ	144 146 147	
46. 幕府政治の動揺 ■浮世絵とジャポニスム	エ	148 150	
□近世とはどんな時代か（第3章のまとめ）	（5）近代の日本と世界I	151	1
第4章 近代の日本と世界（I） 幕末から明治時代			2
第1節 欧米諸国のアジア進出			
47. 市民革命と産業革命		154	
48. 欧米列強のアジア進出		156	
第2節 開国から明治維新へ	ア		11
49. ペリーの来航と開国		158	
50. 尊王攘夷運動の展開		160	
51. 薩長同盟と王政復古		162	
52. 明治新政府		164	
53. 廃藩置県と四民平等		166	
54. 学制・兵制・税制の三大改革 ■明治維新とは何か	イ	168 170	
55. 近隣諸国との国境画定 ■琉球処分とは何か ■日本の近代化とアイヌ		172 174 175	
56. 岩倉使節団と征韓論		176	
57. 殖産興業と文明開化 ■幕末・明治期の日本人の生き方		178 180	
第3節 立憲国家と日清・日露戦争			
58. 条約改正への苦闘		182	

59. 自由民権運動と政党の誕生		184	9	
60. 大日本帝国憲法と立憲国家 ■福沢諭吉の『学問のすすめ』と「脱亜論」	ウ	186 188		
61. 日清戦争と三国干渉		190		
62. 日英同盟		192		
63. 国家の命運をかけた日露戦争 ■日露戦争を戦った日本人		194 196		
64. 世界列強の仲間入りをした日本 ■明治国家を背負った政治家・伊藤博文		198 200		
第4節 近代産業と近代文化の形成				
65. 近代産業の発展とその背景 ■日本の実業家の伝統をつくった渋沢栄一	エ	202 204		2
66. 近代文化の形成 ■世界が見た日露戦争		206 208		
□近代 (I) とはどんな時代か (第4章のまとめ)		210	1	
第5章 近代の日本と世界 (II) 大正・昭和時代前半	(5) 近代の日本と世界 II		6	
第1節 第一次世界大戦とその影響	オ			
67. 第一次世界大戦と日本の参戦		212		
68. ロシア革命と大戦の終結		214		
69. ベルサイユ条約と大戦後の世界		216		
70. 政党政治の展開と社会運動		218		
71. 日米関係とワシントン会議		220		
72. 文化の大衆化と都市の生活		222		
第2節 第二次世界大戦と日本				
73. 世界恐慌とその影響		224	12	
74. 共産主義とファシズムの台頭		226		
75. 中国の排日運動と協調外交の挫折		228		
76. 満州事変と満州国建国		230		
77. 日中戦争 (支那事変)	カ	232		
78. 中国をめぐる日米関係の悪化		234		
79. 第二次世界大戦の始まり		236		
80. 大東亜戦争 (太平洋戦争)		238		
81. 大東亜会議とアジア諸国		240		
82. 戦時下の国民生活		242		
83. 終戦をめぐる外交と日本の敗戦 ■大東亜戦争とアジアの独立 ■戦時国際法と戦争犯罪		244 246 248		
□近代 (II) とはどんな時代か (第5章のまとめ)		249		1
第6章 現代の日本と世界 昭和時代後半・平成時代	(6) 現代の日本と世界		4	
第1節 占領と冷戦	ア			
84. 占領下の日本 ■占領下の検閲と東京裁判		252 254		

85. 占領政策の転換と朝鮮戦争		256	
86. 独立の回復と米ソ冷戦		258	
第2節 高度経済成長と日本の発展			
87. 世界の奇跡・高度経済成長 ■日本の底力を世界に示した 昭和39年の東京オリンピック		260 262	4
88. 冷戦の推移と日本の経済発展 ■昭和天皇 国民とともに歩まれた生涯	ク	264 266	
89. 戦後の文化		268	
第3節 21世紀の世界と日本			
90. 冷戦の終結と共産主義の崩壊	ア	270	3
91. 21世紀の日本の進路 ■勇気と友情の物語 世界と交流した近代日 本 ■東日本大震災と日本人		272 274 276	
□現代とはどんな時代か（第6章のまとめ）	(1) 歴史のとらえ方	277	1
歴史を学んで 日本の歴史の特色は何か 歴史年表 年号・西暦早見表		279 290 294	3
期末試験			7
合計			130